

平成26年度幡多地域アクションプランの追加、削除、修正項目等について





目 次

地域アクションプラン対象表 H25→H26									P 1 ~		
地域アクションプラン (追加・削除・修正項目 抜粋分)									P 4 ~		
		H 25 No.	H 26 No.	宿 毛 市	土 佐 清 水 市	四 万 十 市	大 月 町	三 原 村	黒 潮 町	地域アクションプラン 項目	
追加	4件	—	4				●			6次産業化推進による地域農業振興事業	P 4 ~
		—	25	●						土佐清水発！宗田節が良くて加工施設整備・販路拡大事業	P 8 ~
		—	38						●	防災関連新産業創造事業	P 12 ~
		—	42	●						足摺・竜串を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大	P 16 ~
削除	1件	9	—		●					バイオマスを利用した木材の乾燥施設等の導入	P 19 ~
統合	なし	—	—							—	—
分割	なし	—	—							—	—
拡充	なし	—	—							—	—
修正	10件	3	3		●					有機農業普及・拡大事業	P 21 ~
		4	5					●		三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築	P 23 ~
		15	15	●						宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業	P 25 ~
		21	21	●						直七の生産、加工、販売の促進	P 27 ~
		22	22	●						地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり	P 29 ~
		26	27		●					「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進	P 31 ~
		31	32				●			苺を核とした6次産業化	P 33 ~
		34	35						●	カツオ文化のまちづくり事業	P 35 ~
		35	36						●	佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進	P 37 ~
	40	43		●					四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進	P 39 ~	

平成26年度 幡多地域アクションプラン 線表(案)

No.	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	項目(平成25年度現在)
	10	9	13	11	4	11	
1	●	●	●	●	●	●	水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成
2	●						洋ランのブランド確立・流通促進事業
3			●				有機農業普及・拡大事業
4					●		三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築
5						●	「若山椿」ブランド復活プロジェクト
6						●	弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画
7						●	有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生
8	●	●	●	●	●	●	森の工場・間伐の推進
9			●				バイオマスを利用した木材の乾燥施設等の導入
10			●				「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進
11				●			町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業
12	●						地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進
13	●						宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進
14	●			●			民間企業との連携による水産物の販路拡大
15	●						宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業
16		●					サメ漁業の復活に向けた取組
17		●					宗田節の販路拡大に向けた取組
18			●				“川辺の暮らし”を支える豊かな四万十川再生プラン
19				●			キビナゴ加工商品の生産体制強化
20				●			大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大
21	●						直七の生産、加工、販売の促進
22	●						地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり
23		●					土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)
24		●					地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業
25			●				地元農産物を使った商品開発事業
26			●				「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進
27			●				栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト
28			●				四万十牛の商品開発・販売
29			●				西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)
30				●			拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)
31				●			莓を核とした6次産業化
32				●			月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり
33						●	黒潮印の商品開発
34						●	カツオ文化のまちづくり事業
35						●	佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進
36						●	水産物加工施設整備事業
37	●	●	●	●	●	●	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進
38		●					竜串観光再発見事業
39		●					土佐清水まるごと戦略観光展開事業
40			●				四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進
41				●			竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業
42						●	黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進

削除

No.	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	項目(平成26年度(案))
	10	11	12	12	4	12	
	●	●	●	●	●	●	水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成
	●						洋ランのブランド確立・流通促進事業
			●				有機農業普及・拡大事業
追加				●			6次産業化推進による地域農業振興事業
					●		三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築
						●	「若山椿」ブランド復活プロジェクト
						●	弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画
						●	有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生
	●	●	●	●	●	●	森の工場・間伐の推進
			●				「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進
				●			町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業
	●						地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進
	●						宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進
	●			●			民間企業との連携による水産物の販路拡大
	●						宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業
		●					サメ漁業の復活に向けた取組
		●					宗田節の販路拡大に向けた取組
			●				“川辺の暮らし”を支える豊かな四万十川再生プラン
				●			キビナゴ加工商品の生産体制強化
				●			大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大
	●						直七の生産、加工、販売の促進
	●						地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり
		●					土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)
		●					地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業
追加		●					土佐清水発！宗田節が良くでる加工施設整備・販路拡大事業
			●				地元農産物を使った商品開発事業
			●				「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進
			●				栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト
			●				四万十牛の商品開発・販売
			●				西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)
				●			拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)
				●			莓を核とした6次産業化
				●			月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり
						●	黒潮印の商品開発
						●	カツオ文化のまちづくり事業
						●	佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進
						●	水産物加工施設整備事業
追加						●	防災関連新産業創造事業
	●	●	●	●	●	●	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進
		●					竜串観光再発見事業
		●					土佐清水まるごと戦略観光展開事業
追加		●					足摺・竜串を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大
			●				四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進
				●			竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業
						●	黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	大月町	素材名 関連素材	ケール、生姜、サツマイモ等
------	-----	-------------	---------------

現状・課題	<p><現状> 実施主体：株式会社大月農園。平成19年6月5日に法人設立。建設業からの異業種参入。 生産物：ケール(250a×2期作)、大麦若葉(50a)、生姜(100a)、里芋(50a)、サツマイモ(300a)、桑(10a)。 設立以降、収益の柱となる作物を模索中(生姜、里芋、ケール等)。 ・産振センターの農商連携事業化支援事業(土佐清水海洋開発等)を活用し、サツマイモ・生姜を活用した加工食品、菓子類の開発・販売に取り組んでいる。 ・町内にある飲食店経営事業者と連携し、生姜糖、芋ケンピ、芋の加工品の製造販売等を行っている。</p> <p><課題> ・ケールは、栄養飲料原料用に契約栽培しているため、販路(出荷先)は確保できているものの、一次加工作業(洗浄・乾燥)にかかる手作業が多いことより、コストパフォーマンスが低く利益を生み出せていない。 また、納入事業者からは、ケール以外の品目(大麦若葉等)の栽培についての打診もあるが、そのためには、ケールの一時加工施設整備による業務効率化をはかることで、他の作物の栽培時間を確保したいという思いがある。</p>
	今後の方向性

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	6次産業化推進による地域農業振興事業
	関係市町村名	大月町

事業の概要	ケール等の農産物の加工設備を整備し生産拡大に取り組むとともに、その他地域農産物についても、加工品等開発、販路拡大に取り組む。これにより、地域農家との連携協力体制を構築し、遊休農地の活用につなげるとともに、地域農産物の生産拡大、加工品開発、販売強化を通じて、地域雇用を生み出す。					
	【事業主体】 農業生産法人 株式会社 大月農園 【関係機関】 (財)大月町ふるさと振興公社、ジェイアンドエムズ、大月町、土佐清水海洋開発(株)、(株)遠藤青汁高知センター					
主な内容・スケジュール	取組手順	(H25)	事業実施 (H26)	1年後 (H27)	2年後 (H28)	以降 (H29以降)
	農産物の生産拡大・販売	農産物の生産拡大・販売(地域の農家との連携、遊休農地活用)				
農産物加工品の商品開発・製造・販路拡大	生姜・サツマイモ等加工品の商品開発・製造・販路開拓・営業(連携事業者と共に)					
指標・目標	項目	(H25)	事業実施 (H26)	1年後 (H27)	2年後 (H28以降)	
	売上高	(H24:33,138千円) (H25:20,000千円)	30,000千円	35,000千円	39,000千円	
	【設定根拠】	【推計の考え方】 24年度実績：33,138千円、25年度見込：20,000千円(原因：夏季の高温少雨、秋季の多雨、品目転換過渡期等) 26年度：ケール出荷額(湯洗、乾燥処理)18,000千円、農産物出荷(生姜等)10,000千円、その他加工品2,000千円 27年度：ケール・大麦出荷額(湯洗、乾燥処理)22,000千円、農産物出荷(生姜等)10,000千円、その他加工品3,000千円 28年度：ケール・大麦出荷額(湯洗、乾燥処理)24,000千円、農産物出荷(生姜等)10,000千円、その他加工品5,000千円				
		【考え方】				

総事業費等	総事業費	千円	(うち25年度	千円)
	(内訳 国:	県:	市町村:	その他:)
	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他)	国:	県:	人的支援:
	その他:			
備考				

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
4 6次産業化推進による地域農業振興事業 ＜大月町＞	ケール等の農産物の加工設備を整備し生産拡大に取り組みとともに、その他地域農産物についても、加工品等開発、販路拡大に取り組み。これにより、地域農家との連携協力体制を構築し、遊休農地の活用につなげるとともに、地域農産物の生産拡大、加工品開発、販売強化を通じて、地域雇用を生み出す。	-(株)大月農園			◆農産物の生産拡大・販売 ◆農産物加工品の商品開発・製造・販路拡大

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 農産物の生産拡大・販売 販促および栽培面積拡大に向けた取組 </div>				→	売上高 (H24:33,138千円)	35,000千円
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ケール・大葉若葉の乾燥施設等整備 </div>					
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 農産物加工品の商品開発・製造・販路拡 加工施設整備(生姜等を原料とした加工品製造設備)及び販路開拓 </div>		→			

有望素材シート（26年度プラン追加分）（案）

様式1-1

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	土佐清水市	素材名 関連素材	宗田節
------	-------	-------------	-----

現状・課題	<p><現状></p> <p>『宗田節』は、生産量全国シェア約8割、生産従事者約300人の土佐清水市の地域経済を支える重要な地場産業である。これまで主に業務用として流通しその需要に支えられてきたが、食の選択肢の多様化などに伴い宗田節の需要が減少傾向にあることから、近年、一般（末端）消費者をターゲットとした認知度の向上及び消費の拡大に向け、加工品（付加価値商品）の開発・製造・販売にも取り組んでいる。（市の全体的な現状）</p> <p>同社についても平成22年7月の立ち上げ以降、『宗田節』を使った加工品の製造・販売に取り組んでおり、主力商品である『だしが良くでる宗田節』については、現在では月に約2,000～3,000本の出荷量があり、地域の雇用も生まれている。</p>
	<p><課題></p> <p>現状の体制（加工施設（工場）が狭く非効率な生産体制）では製造量に限界があり、かつ衛生面も十分でないため、衛生管理上の理由から販路についても限られている（販路拡大が図れない）状況である。</p>
今後の方向性	<p>現在は、土佐清水市内の店舗やホテル、また、高知市内のホテル、県内のスーパーや土産店が主な取引先（他、引出物用として特別仕様（名入れ・日付入れ）の商品もあり）であるが、個人客をはじめ県外量販店などからも引き合いがあることから、増産体制を整え需要への対応を図る。併せて、衛生管理面の一層の充実を図ることで販路拡大を図る。</p> <p>また、主に個人客を対象としたリピーターづくりや、プライダル業界への参入にも注力していく。</p> <p>これらの取り組みにより、雇用が見込まれるとともに、販売拡大が図られることから『宗田節』生産者の所得向上にもつなげる。</p> <p>（2020年東京オリンピックでは、日本のだし文化を象徴する土産品となるよう、それも視野に入れた（意識した）取り組みも行う。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	土佐清水発！宗田節が良くでる加工施設整備・販路拡大事業
	関係市町村名	土佐清水市

事業の概要	<p>宗田節関連商品の製造力の向上及び衛生管理体制の充実により、販売・販路の拡大を図るとともに、新たな商品開発等へも取り組みながら、宗田節生産者の所得向上及び地域の安定した雇用の創出を目指す。</p> <p>生産体制を強化し、販路を拡大するため次の事業を実施する。</p> <p>1. 施設・設備等整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンルーム、発送準備室及び容器洗浄室を完備した工場建設 ・洗浄機導入 ・洗浄後容器の保存庫導入 <p>2. 販路拡大・販売促進等事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示商談会等への参加 ・HPの充実 ・販促PR資材の製作 ・プライダル等業界への販売ルート拡大と確立 <p>3. 商品開発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 ・既存商品の磨き上げ
-------	---

事業主体等	【事業主体】	(株) ウェルカムジョン万カンパニー				
	【関係機関】	漁業者、宗田節生産（加工）事業者				

主な内容・スケジュール	取組手順	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】
	施設改善		施設・設備等の整備			
	販路拡大・販売促進	展示会・商談会等への参加	→	→	→	→
	商品開発				新商品開発等	

指標・目標	項目 (期末：12月末)	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】
	売上高(千円)		30,000千円	36,000千円	40,000千円	45,000千円
		H24実績：22,000千円				
	【設定根拠】	【推計の考え方】 施設・設備等の整備（製造力の向上及び衛生管理体制の充実）により販売・販路が拡大。				
		【考え方】				

総事業費等	総事業費	20,000千円	(うち26年度 15,000千円)
	(内訳 国： 県： 市町村： その他：)	国： 県： 10,000千円 市町村： その他： 10,000千円)	
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県： 高知県産業振興推進総合支援事業費補助金 人的支援： その他：	

備考	
----	--

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
25 土佐清水発！宗田節が良くなる加工施設整備・販路拡大事業 【土佐清水市】	宗田節関連商品の製造力の向上及び衛生管理体制の充実により、販売・販路の拡大を図るとともに、新たな商品開発等へも取り組みながら、宗田節生産者の所得向上及び地域の安定した雇用の創出を目指す。	(株)ウェルカム ジョン万カンパニー			◆製造体制の強化・充実 ◆販路拡大及び販売促進 ◆商品開発・改良

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
		製造体制の強化・充実 施設・設備等の整備			売上高 (H24:22,000千円)	36,000千円
	販路拡大及び販売促進 展示会・商談会等への参加、HPの充実、販促PR資料の製作 プライダル・贈物業界等への販売ルートの拡大と確立など					
				商品開発・改良 新商品の開発 既存商品の磨き上げなど		

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	黒潮町	素材名	カツオ・黒糖等
		関連素材	
現状・課題	黒潮町では、公共事業の縮小や少子・高齢化に伴い、過去10年で市町村総生産が20%減少した。また、2012年、政府より公表された南海トラフ巨大地震による黒潮町の津波高が日本最大の34.4mという想定により、津波リスクを嫌った町民の転出等の震災前過疎が懸念されるなど、地域の振興が喫緊の課題となっている。 こうした現状を踏まえ、若者が地元で働くことができる場を増やすため新産業創造プロジェクトを産学官連携で推進している。この第一弾プロジェクトとして、「毎日食べたい非常食」をキーワードとした防災関連食品開発事業として、町単独で防災関連食品工場（ラボラトリー施設）の建設、商品開発を進めている。		
今後の方向性	被災地ヒアリングでは、「偏った食事からの健康二次被害」や「アレルギーのために食べられなかった」事例など、災害時の食に関する課題が明らかとなった。こうした調査結果を受け、黒潮町の防災関連食品は、非常時だからこそ普段と変わらず安心して食事を摂取できるための「栄養バランスへの配慮」や「7大アレルゲンフリー化」に挑戦する予定であり、既に他の地方自治体や卸問屋、企業等からの問い合わせ等、手ごたえを感じている。 こうしたニーズに対応するため、施設整備及び人材育成の他、HACCP導入等による安全・安心な商品を提供できるシステムづくりを推進する。また、事業の推進により、防災関連食品の普及、地域雇用、食材生産者の所得向上につなげていきたい。		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	防災関連新産業創造事業
	関係市町村名	黒潮町

事業の概要	農水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」「地消」「外商」を図ることで、雇用機会の創出はもたらん、地域生産者の所得向上につなげていく。 ※具体的な取り組み 1. 施設・設備等整備事業 ・防災関連食品生産施設の整備 2. 販路開拓・販売促進等事業 ・国内商談会参加 ・海外商談会参加 3. 生産の担い手対策等事業 ・防災関連食品普及活動 ・アレルゲンフリー対策 ・域内調達の推進
-------	--

事業主体等	【事業主体】 黒潮町 【関係機関】 黒潮町の設立する第三セクター
-------	---

取組手順	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29以降】
施設整備	事業計画の作成 基本設計 ラボ建築 品質管理体制強化	実施設計 施設・設備等の整備 HACCPによる品質管理	→		
体制強化	法人化 資格取得	組織体制の強化 業務の細分化を図る	→	→	→
商品開発	商品開発 缶詰50種試作	商品開発	→	→	→
販路開拓	防災食普及の推進 国内2社を検討 海外商談（スペイン）	国内商談会参加 海外商談会参加	→	→	→

項目	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29以降】
売上高		32,400千円	74,304千円	85,968千円	97,632千円
【設定根拠】	【推計の考え方】 25年度、施設構想・営業戦略により商品力・販売力を高める。 25年度、提携関係企業との充実による商談。 26年度、施設等の整備により増産体制の充実を図る。 27年度以降、新商品開発等のための製造に関係するスタッフの強化				
	【考え方】				

総事業費等	総事業費 300,000 千円 （内訳 国： 県： 50,000 市町村： 250,000 その他： ）
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他） 国： 県：高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援： その他：
備考	

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
38 防災関連新産業創造事業 ◀黒潮町▶	農水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」「地消」「外需」を図ることで、雇用機会の創出はもちろんだ、地域生産者の所得向上につなげていく。	・黒潮町 ・黒潮町の設立する第三セクター			◇施設・体制の充実強化 ◇商品開発・販路開拓

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					売上高	74,000千円
	施設・体制の充実強化					
	包装食品技術管理者資格取得		HACCPの取得			
	事業計画策定	法人化	組織体制の強化			
	基本設計	ラボ建築	実施設計	施設・設備等整備		
	商品開発・販路開拓					
	新商品の開発					
	国内外の商談会への参加					
	高知県防災関連産業の認定					

有望素材シート（26年度プラン追加分）（案）

様式1-1

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	土佐清水市	素材名 関連素材	地質、地形、生物、生態系、歴史、文化、遺跡
現状・課題	<p><現状> 当市は、足摺岬をはじめ全国屈指の景勝地に恵まれ、また、地質の博物館とも言われる竜串・見残し海岸を有するなど、美しい自然景観と学術的価値を併せ持った地域である。 足摺岬周辺には、花崗岩台地が隆起と沈降を繰り返してできた断崖や、その上に生い茂る亜熱帯性の植物など自然が織りなす明媚に加え、海岸段丘の一角にストーンサークルと思われる石の配列（唐人駄場）や巨石が林立（唐人石（巨石群））し、太古の巨石文明の名残りではないかとされている遺跡がある。また、竜串地区は、約6400万年前から260万年前まで（第三紀層）の砂岩が堆積し形成されたと言われ、大竹小竹・蛙の千匹連など長い歳月の間に風や波によって浸食を受けた自然造形的美しさが楽しめ、水中の堆積物の表面につくられた凹凸がそのまま地層の成層面の上に残された学術上貴重な化石連痕は地震により隆起した海食台に豊富に見ることができ、足摺宇和海国立公園の代表的な景観となっている。 ほかにも、海蝕洞窟・奇岩群・サンゴ群集・温泉・食・特産品・遅路・祭り・民話・郷土芸能など、当市には、『大地（ジオ）』を体感できる場所・資源が数多く存在しており、これら資源は官民協働のもと保全しながら、かつ地域学習への活用にも努めている。</p> <p><課題> ジオパークに関する専門知識の不足（習得）⇒ 専門家（機関）からの指導・助言及び連携・協力体制の構築</p>		
今後の方向性	<p>『日本ジオパーク』の認証に向け、各種組織や団体との連携づくり・体制づくり、また、出前講座や勉強会・研修会等の開催並びに活動の情報発信などを通じて地域の機運・一体感を盛り上げ、ソフト・ハード一体となった受入態勢の整備を図る。 当市が持つ様々な地域の宝を有機的に結びつけ、保全や教育、ツーリズムに利用しながら、地域の持続的な経済発展を目指す。</p>		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	足摺・竜串を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大
	関係市町村名	土佐清水市

事業の概要	<p>足摺岬（ラバキピ花崗岩）、竜串・見残し（化石連痕）、唐人駄場（巨石群）等、日本でも貴重な地域資源（地質等）の『日本ジオパーク』の認証に向けた取組を進め、地域保全及び教育並びに交流人口の拡大につなげるため、次の事業を実施する。</p> <p>1. 推進体制（組織）の構築 ・日本ジオネットワーク準会員加盟 ・構想・計画策定 ・協議会等の設置・運営 ・認証ジオ視察・大会参加等 ・パン等情報発信ツール作成</p> <p>2. 受入態勢の整備（ソフト） ・勉強会・研究会等の開催 ・ジオパークガイド用教材作成 ・ジオパークガイド養成 ・ジオパーク活用イベント・ジオリズム実施等</p> <p>3. 受入態勢の整備（ハード） ・ジオパーク資源の調査・発掘 ・拠点施設・ジオ村・案内看板などの基盤整備等</p>					
事業主体等	<p>【事業主体】 土佐清水市、（仮称）足摺・竜串ジオパーク推進協議会</p> <p>【関係機関】 国、県、自然・文化遺産等関係、教育関係、観光関係、地域、市民ボランティア、商工関係、農林水畜産関係</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	[H25]	事業実施 [H26]	1年後 [H27]	2年後 [H28]	3年後 [H29]
	推進体制（組織）の構築	準備委員会立上げ準備等	日本ジオネットワーク準会員加盟 構想・計画策定 準備委員会の設置 認証ジオ視察・大会参加等 パン等情報発信ツール作成	→ 協議会の設置 → →	『日本ジオパーク』認証 協議会の運営 → →	→ → →
	受入態勢の整備（ソフト）		勉強会・研究会等の開催 ジオパークガイド用教材作成	→ ジオパークガイド養成 ジオパーク活用イベント開催 ジオリズム実施等	→ → → →	→ → → →
	受入態勢の整備（ハード）		ジオパーク資源の調査・発掘 拠点施設・ジオ村・案内看板などの基盤整備等	→ →	→	→
指標・目標	項目（期末：12月末）	[H25]	事業実施 [H26]	1年後 [H27]	2年後 [H28]	3年後 [H29]
	ジオパークガイド登録者数（人）	—	—	10人	15人	20人
	ジオパーク関係施設	—	※計画策定後記載	※計画策定後記載	※計画策定後記載	※計画策定後記載
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】 指標を2項目設定しているが、当事業の構想及び計画が未策定（ジオパーク関係施設が未確定）という現状であることから、ジオパーク関係施設入込客数については事業効果を評価するうえで必要となる基礎値（ベース）が計れないため、ジオパークガイド登録者数の目標値のみ計上。</p> <p>【考え方】</p>				

総事業費等	総事業費 未確定 千円 （うち 年度 千円） （内訳 国： 県： 市町村： その他： ）
	<p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 環境省直轄事業・文化庁補助事業 県： 高知県観光拠点等整備事業費補助金 人的支援： 活用可能な支援策があればフル活用</p> <p>その他：</p>
備考	

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>42 足摺・竜串を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大 【土佐清水市】</p>	<p>足摺岬(ラバキビ花崗岩)、竜串・見残し(化石遺痕)、唐人駄塚(巨石群)等、日本でも貴重な地域資源(地質等)の『日本ジオパーク』の認証に向けた取組を進め、地域保全及び教育並びに交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>-土佐清水市 ・(仮称)足摺・竜串ジオパーク推進協議会</p>			<p>◆推進体制(組織)の構築</p> <p>◆受入態勢の整備(ソフト)</p> <p>◆受入態勢の整備(ハード)</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					ジオパークガイド登録者数	10人
	推進体制(組織)の構築	日本ジオネットワーク学会加盟		日本認証申請及び現地審査		
		構想・計画策定				
	準備委員会立上げ準備等	準備委員会の設置	協議会の設置・運営			
		認証ジオパーク視察研修、大会・会議への参加など パンフレット・HP・ガイドマップ・ガイドブック等の情報発信ツールの作成など				
		受入態勢の整備(ソフト)				
		勉強会・研究会等の開催(講師(専門家等)招聘)など				
		ジオパークガイド用教材作成	ジオパークガイド養成			
			ジオパークを活用したイベントの開催、ジオパークの実施など			
		受入態勢の整備(ハード)				
		ジオパーク資源の調査・発掘(専門家による調査等)				
		拠点施設・ジオサイト・案内看板などの基盤整備等				

削除項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
9 バイオマスを利用した木材の乾燥施設等の導入 ◀四万十市▶	木材の乾燥及び加工施設の導入による木製品の品質向上を図るとともに、樹皮や端材などの木屑を熱源としたバイオマス利用システムの構築を目指す。	・協同組合	・参画予定事業者との検討会(H21~23) ◆4民同事業者と会を重ねる中で、最大の課題である乾燥機械導入費用について、「事業協同組合では国庫補助対象外。森林組合の場合は固定資産保有比率の整理が前提となり厳しい。」ことを確認した。 今後は、資金調達上必須である、費用対効果をふまえた計画づくりと、支援制度の活用検討が必要。	・施設導入費用の確保 ・経営計画、資金調達計画の見直し	◆施設整備 (木材乾燥施設、木材加工施設、バイオマス利用施設)



削除

削除理由

- ・当初は民間4事業者の協同事業体としてモルダ(自動かんば機)や乾燥施設を導入し、乾燥機の熱源には樹皮や端材のバイオマス燃料を使った木質ボイラーの導入を行う計画であった。
 - ・国庫補助事業はそれぞれの施設を共同利用としなくてはならないため、設置(森林組合)した機械を使うために木材の運搬等の費用が発生することや民間事業者にとってはメリットが少ないことから協同組合方式から個別に事業展開することとなった。
 - ・うち、民間1事業体は単独事業により灯油乾燥機の導入を行ったが、残り3事業体については財務状況の悪化や機械設備が高額となることから事業を断念することとなった。
- 以上、「事業主体として協同の合意に至らなかった」「事業者単独での導入についても財務状況等より現時点では断念せざるを得ない」ことから、産業振興計画から削除とする。

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
施設整備(木材乾燥施設、木材加工施設、バイオマス利用施設)					→	乾燥材生産量	900m ³
施設整備検討・整備							
地域産材の販売促進							



削除

修正項目(案)

【播多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
3 有機農業普及・拡大事業 《四万十市》	安全・安心な有機栽培による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」の定着を目指す。	・四万十市	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業の普及拡大(H21~23) ・高付加価値農業の研修(H21~23) ◆四万十市の一般市民を対象に、H21から継続して「生産技術研修会」を開催した。 また、地域雇用創造実現事業で3名を雇用し、水稲2ha・露地野菜17aの栽培を実施した。 ・有機農産物流通システム構築事業(H22~23) ◆緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用し、宅配(一般家庭)の募集と事業PRを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物のさらなる認知度向上 ・有機農産物の栽培技術の向上 ・需要の拡大(PRと販売促進) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆有機農産物流通システム構築事業 ◆環境にやさしい農業への転換の推進 ◆有機米のブランド化 ◆学校給食への出荷量増加



【播多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			総括	課題	
3 有機農業普及・拡大事業 《四万十市》	安全・安心な有機栽培による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」の定着を目指す。	・四万十市	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業の普及拡大(H21~25) ・高付加価値農業の研修(H21~25) ◆四万十市の一般市民を対象に、H21から継続して「生産技術研修会」を開催した。 また、地域雇用創造実現事業で3名を雇用し、水稲2ha・露地野菜17aの栽培を実施した。 (環境保全型農業支援対策申請面積=H25.12月:1,908a) ・有機農産物流通システム構築事業(H22~24) ・有機農産物流通システム推進事業(H25) ◆緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用し、宅配(一般家庭)の募集と事業PRを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物のさらなる認知度向上 ・有機農産物の栽培技術の向上 ・需要の拡大(PRと販売促進) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆有機農産物の流通拡大支援 ◆環境にやさしい農業への転換の推進 ◆学校給食への出荷量増加

修正後

修正理由

目標値の上方修正...環境保全型農業直接支援対策申請面積がH25:1908aと、当初H27目標1500aを達成できたことによる修正。

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
有機農産物流通システム構築事業					→	環境にやさしい農業 申請面積の増加 (H22:約1,000a)	1,500a
第一期計画時の事業をより発展させ、事業所等への宅配、市外への発送を増加させ、四万十市の有機農産物の認知度向上を目指す							
環境にやさしい農業への転換の推進					→	有機野菜の出荷率 出荷量の増加 (H22:約30%)	50%
環境保全型農業直接支援対策実施への参加促進および5割低減の作付けの取組の推進							
有機米のブランド化					→		
モデル地区の策定および参加促進							
学校給食への出荷量増加					→		
出荷品目の調整および栽培技術向上							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
有機農産物流通拡大支援					→	環境にやさしい農業 取組面積の増加 (H22:約1,000a)	2,500a
第一期計画時の事業をより発展させ、事業所等への宅配、市外への発送を増加させ、四万十市の有機農産物の認知度向上を目指す							
環境にやさしい農業への転換の推進					→	有機野菜の出荷率 出荷量の増加 (H22:約30%)	50%
環境保全型農業直接支援対策実施への参加促進および5割低減の作付けの取組の推進、環境に配慮した農産物のブランド化							
学校給食への出荷量増加					→		
出荷品目の調整および栽培技術向上							

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
4 三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築 《三原村》	三原村の環境を生かした中山間の農業振興策として、農業公社を核としたユズ、プロッコリーの産地化を目指す。	・(財)三原村農業公社 ・三原村 ・JA高知はた	<ul style="list-style-type: none"> ユズの産地化の推進(H20~23) 農業機械高度化(H21~23) 栽培維持、発展支援システムの構築(H21~23) 公社施設の整備(H22) ◆三原村農業公社の農地集積により、ユズ10ha、プロッコリー1.2haを直接栽培、常勤6名を雇用。あわせて、農作業受託・機械リース等により、農地保全、中山間地域のモデルケースとして期待できるまでになった。 また、JA高知はた全域で共同選果体制が構築されたことで、市場評価が向上した。 -商品づくり-販路開拓(H22~23) ◆H21、22、23と段階的に産業振興総合補助金を活用し、栽培~収穫~加工~販売までの一連の体制を構築。その結果、水田へのユズ新植が進み、H19:7.6haからH23:28.1haに増加。(幡多管内H19:56ha、H23:71.3ha) H22よりオリジナル加工品販促活動が本格化。各種フェア等での出展等により商品が浸透し始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> -生産拡大に伴うユズ果汁過剰による加工用ユズ価格の低下 -高齢化と後継者不足、新規生産者の確保 -ユズ加工製品の販売促進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域農業支援システムの構築 ◆ユズ製品開発及び加工施設の検討(ハード整備等)



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容

修正後

修正理由

目標項目の追加...販売金額(農家手取り額)を新たに追加した。

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
地域農業支援システムの構築					ユズ生産量 (H19: 65t) (H22: 74t)	400t
水田転換畑へのユズの新植推進と青果率向上対策						
生産の担い手対策及び産地の維持、発展に向けた支援システムの実施						
ブロッコリー研究会を中心とした栽培講習会及び担い手確保による産地化の推進						
ユズ製品開発及び加工施設の検討(ハード整備等)					栽培面積 (H19: 7.6ha) (H22: 22.0ha)	50ha
ユズ新商品の開発研究及び販売ルートの拡大						
加工施設の導入検討						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
地域農業支援システムの構築					ユズ生産量 (H19: 65t) (H22: 74t)	400t
水田転換畑へのユズの新植推進と青果率向上対策						
生産の担い手対策及び産地の維持、発展に向けた支援システムの実施						
移住促進研修施設と連携した研修事業の立ち上げ					栽培面積 (H19: 7.6ha) (H22: 22.0ha)	50ha
研修カリキュラムの構築と人材育成						
ユズ製品開発及び加工施設の検討(ハード整備等)					販売金額(農家手取り金額) (H24: 12,515千円) (H25: 17,210千円)	27,500千円
ユズ新商品の開発研究及びユズ商品(OEM製造)の販売						
加工施設の導入検討		加工施設の整備				
加工商品の製造・販売						

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業 《宿毛市》	ブリやカツオ等、宿毛近海で獲れる魚を活用し、消費者ニーズに基づく商品開発・生産体制充実・販売促進に取り組むことで、地域ブランド確立および原材料そのものの付加価値化を図る。	(株)沖の島水産			◆生産体制の充実強化 ◆商品開発と販売促進



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業 《宿毛市》	ブリやカツオ等、宿毛近海で獲れる魚を活用し、消費者ニーズに基づく商品開発・生産体制充実・販売促進に取り組むことで、地域ブランド確立および原材料そのものの付加価値化を図る。	(株)沖の島水産	<ul style="list-style-type: none"> -県「弥太郎！商人塾」参加(H22,H23,H25) -県ステップアップ事業による冷凍施設整備、パッケージデザイン、販売促進の実施(H23) -県産業振興総合補助金活用による加工施設整備(H25) ◆加工品売上高は、H22-800万円、H23-1,929万円、H24-4,209万円と飛躍的に伸びている。また、H25加工施設整備により、衛生管理面の向上、生産体制の強化充実を図ることが出来たことで、今後の展開が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> -販路の拡大 -消費者ニーズに応じた新商品の開発 	◆生産体制の充実強化 ◆商品開発と販売促進

修正後

修正理由

目標値上方修正(1170→6867万円)・・・メディアを絡めた販売戦略の成果によりH27目標値を大幅に上回ったこと、およびH25加工施設整備に伴い量産体制が見込めるとして上方修正した。

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産体制の充実強化	生産体制の強化			施設設備の整備検討	売上高 (H22:800万円)	1,170万円
商品開発と販売促進						
パンフレット・HP作成	各種展示会・商談会等への参加					
	新商品開発					



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
生産体制の充実強化	生産体制の強化				加工品売上高 (H22:800万円)	6,867万円	
事業計画の作成							
	施設・設備等の整備						
商品開発と販売促進							
パンフレット・HP作成	各種展示会・商談会等への参加						
	新商品開発						

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
21 直七の生産、加工、販売の促進 《宿毛市》	地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。	・直七生産組合 ・直七の里(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合の設立(H21) ・搾汁施設等の整備(H22) ・新商品の開発、商品パッケージの見直し(H22~23) ◆H22産業振興総合補助金を活用して、搾汁施設を整備。品質向上に伴い大手メーカー、県内外で取引が拡大。 H21までの商品アイテム数は、ポン酢を始め4種類であったが、H23にはジャムなど新たに2種類が追加、今後も飲料水メーカー等との協力により新商品開発の予定。 H23は天候不順等により直七生産量が落ち込んだが、今後、新植した樹木の生長や鳥獣対策強化等により、増加が見込まれる。 H23には、直七販売専門会社「直七の里(株)」が設立。地産外商の拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産拡大に向けた取組 ・新商品の開発 ・販路の拡大 ・商品の製造 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産体制の強化 ◆新商品の開発 ◆販路拡大 ◆製造工場の整備



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 直七の生産、加工、販売の促進 《宿毛市》	地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。	・直七生産組合 ・直七の里(株) ・直七酒販(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合の設立(H21) ・搾汁施設等の整備(H22) ・新商品の開発、商品パッケージの見直し(H22~23) ・すくも清酒造と連携し、「直七マダムの開発 ◆H22産業振興総合補助金を活用して、搾汁施設を整備。品質向上に伴い大手メーカー等、県内外で取引が拡大。 H23「直七の里(株)」設立。 H25「直七酒販(株)」設立。 H25までの商品アイテム数は、ポン酢を始め8種類。今後もメーカー等との協力により新商品開発の予定。 生産量も増加する見込みで、販路も拡大しており、今後の展開が期待できる。 ◆商品の販売増に伴い、組合の青果生産量も増えている。(目標値H27:100tに対し、H19:4t→H20:13t→H21:10t→H22:21t→H23:36t→H24:66t→H25:101t) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産拡大に向けた取組 ・新商品の開発 ・販路の拡大 ・商品の加工 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産体制の強化 ◆新商品の開発 ◆販路拡大 ◆加工施設の整備

修正後

修正理由

目標値上方修正(100t→200t)・・・年次植栽計画に基づき定期的に植栽した成果より、H25:100tを達成。今後も植栽分の収穫増が見込まれることより上方修正。

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産体制の強化					直七果実生産量 (H19:4t) (H22:21t)	100t
新植等による作付面積の拡大						
新商品の開発					直七果実生産量 (H19:4t) (H22:21t)	100t
新商品開発(試作・調査)						
販路拡大					直七果実生産量 (H19:4t) (H22:21t)	100t
パンフレットの作成						
展示会・商談会への参加					直七果実生産量 (H19:4t) (H22:21t)	100t
製造工場の整備						
商品製造工場・体制整備検討					直七果実生産量 (H19:4t) (H22:21t)	100t



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
生産体制の強化					直七果実生産量 (H22:21t)	200t
新植等による作付面積の拡大						
新商品の開発					直七果実生産量 (H22:21t)	200t
新商品開発(試作・調査)						
販路拡大					直七果実生産量 (H22:21t)	200t
パンフレットの作成						
展示会・商談会への参加					直七果実生産量 (H22:21t)	200t
加工施設の整備						
商品加工施設・体制整備検討					直七果実生産量 (H22:21t)	200t

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					新商品の開発	8アイテム
新商品の開発 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 100px;"> 新商品開発(農商工連携事業活用) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;"> 新商品開発 </div>						
					販路拡大	
販路拡大 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 100px;"> パンフレット作成 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;"> 商談会・各種フェア等への出展 </div>						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					新商品の開発	8アイテム
新商品の開発 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 100px;"> 新商品開発 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;"> 商品開発(OEM、パリエーション増等含む) </div>						
					取引先数 (H24: 3社)	5社
販路拡大 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;"> 商談会・各種フェア等への出展 </div>						

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
26 「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進 《四万十市》	四万十市一条通商店街のスーパー跡地を利用して整備された「いちじょこさん市場」を拠点に、地元の素材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として、商店街の活性化を図る。	・まちづくり四万十(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十市中心市街地活性化の一環として、地産地消を推進する「食育プラザ」開店(H21) ・「中小企業基盤整備機構」の支援を受け、集荷・販売・経営全般の改善(H21~23) ・店舗改装(H23) ◆H23産業振興総合補助金を活用し、店舗内外装の全面改修。総菜部門を追加し、施設名称を「いちじょこさん市場」に変更してH23.9.2オープン。販売額の向上と経営安定に取り組んでいる。 雇用目標2名に対し、常勤2名・パート4名の計6名を雇用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標販売額の達成 ・集荷業務の継続 ・催事、交流スペースの有効活用 ・宅配業務の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆目標販売額の達成 ◆販売チャネルの拡大 ◆2号店舗の整備



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
27 「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進 《四万十市》	四万十市一条通商店街のスーパー跡地を利用して整備された「いちじょこさん市場」を拠点に、地元の素材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として、商店街の活性化を図る。	・まちづくり四万十(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十市中心市街地活性化の一環として、地産地消を推進する「食育プラザ」開店(H21) ・「中小企業基盤整備機構」の支援を受け、集荷・販売・経営全般の改善(H21~23) ・店舗改装(H23) ◆H23産業振興総合補助金を活用し、店舗内外装の全面改修。総菜部門を追加し、施設名称を「いちじょこさん市場」に変更してH23.9.2リニューアルオープン。リニューアルオープン後は売上額は順調に推移している(H22売上額31,121千円→H24売上額44,709千円)。 ◆H23にふるさと雇用事業で雇用した2名を、H24から正職員としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標販売額の達成 ・集荷業務の継続 ・催事、交流スペースの有効活用 ・宅配業務の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ◆目標販売額の達成 ◆販売チャネルの拡大

修正後

修正理由

目標値の追加...従来からの雇用者数に加え、売上高を追加。

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>目標販売額の達成</p> <p>・集荷→製造・加工→販売体制の強化 ・交流・催事スペースの利用促進</p> <p>テイクアウトコーナーの新設</p>					<p>雇用者数 (H22:常勤2名) (H22:パート5名)</p>	<p>3名 7名</p>
<p>販売チャネルの拡大</p> <p>近隣商店と連携した宅配事業の実施 (生鮮品、日配品、惣菜、弁当など)</p> <p>新たな販売チャネルの検討、実施</p>						
<p>2号店舗の整備</p> <p>中心商店街内の空き店舗へ2号店出店の計画を検討 (いちじょこさん市場の経営の安定化以降)</p> <p>2号店整備、営業開始</p>						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>目標販売額の達成</p> <p>・集荷→製造・加工→販売体制の強化 ・交流・催事スペースの利用促進</p> <p>テイクアウトコーナーの新設</p>					<p>雇用者数 (H22:常勤2名) (H22:パート5名)</p> <p>売上額 (H24:44,709千円)</p>	<p>3名 7名</p> <p>60,000千円</p>
<p>販売チャネルの拡大</p> <p>近隣商店と連携した宅配事業の実施 (生鮮品、日配品、惣菜、弁当など)</p> <p>新たな販売チャネルの検討、実施</p>						

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
31 苺を核とした6次産業化 《大月町》	大月町の新しい加工品として注目されている苺水りの販売拡大および新商品開発により、苺を大月町の新しい特産品として育成し、生産～加工～販売の一貫体制の構築を目指す。	・農業生産法人 苺水り本舗株式会社	・販路開拓・販売促進(H22~23) ◆H22産振総合補助金を活用し、販促活動に取り組んだ結果、販売店舗数も120店舗を超え、雑誌やメディアで取り上げられる機会も多くなるなど、地域を代表する企業となりつつある。 当方は、大規模な設備投資は見送り、栽培技術向上による収量増や、生鮮・苺水り・アイス等の商品間での苺のやりくり等、効果効率的な事業運営を目指しており、大月地域の新たなビジネスモデルとしての、さらなる業績向上を目指す。	・販路開拓 ・苺の収量拡大 ・生産施設の拡大	◆販路開拓及び広告宣伝活動 ◆新商品開発



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
32 苺を核とした6次産業化 《大月町》	大月町の新しい加工品として注目されている苺水りの販売拡大および新商品開発により、苺を大月町の新しい特産品として育成し、生産～加工～販売の一貫体制の構築を目指す。	・農業生産法人 苺水り本舗株式会社	・販路開拓・販売促進(H22) ◆販売店舗数も120店舗を超え、雑誌やメディアで取り上げられる機会も多くなるなど、地域を代表する企業となっている。 ◆シークワサー、みかん、ゆず、抹茶などのご当地水りも商品化。OEMで取引先が拡大 ◆当方は、生鮮・苺水り・アイス等の商品間での苺のやりくり等、効果効率的な事業運営を目指しており、大月地域の新たなビジネスモデルとしての、さらなる業績向上を目指す。	・販路開拓 ・苺の収量拡大 ・生産施設の拡大	◆販路開拓及び広告宣伝活動 ◆新商品開発

修正後

修正理由

目標値の上方修正(300万円→760万円)・・・その他商品販売実績＝H24:355万円、H25見込み500万円と、既にH27当初目標を超えているため上方修正とする。

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
販路開拓及び広告宣伝活動					→	毎水り販売 (H22:4,409万円)	7,000万円
<ul style="list-style-type: none"> ・販路開拓にむけた営業活動 ・販促グッズの作成、リニューアル 							
新商品開発					→	新商品販売 (H22:1.2万円)	300万円
<ul style="list-style-type: none"> ・ご当地水りの開発(地域間連携) ・イチゴに関連した商品開発 							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
販路開拓及び広告宣伝活動					→	毎水り販売 (H22:4,409万円)	7,000万円
<ul style="list-style-type: none"> ・販路開拓にむけた営業活動 ・販促グッズの作成、リニューアル 							
新商品開発					→	その他商品販売 (H22:1.2万円)	760万円
<ul style="list-style-type: none"> ・ご当地水りの開発(地域間連携) ・イチゴに関連した商品開発 							

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
34 カツオ文化のまちづくり事業 《黒潮町》	日本一のカツオ漁獲高を誇るカツオ一本釣り船団を有する黒潮町佐賀地域において、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新商品開発、PR等の取組を進めることによって、「カツオ文化のまち」としてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。	・黒潮町商工会 ・黒潮町 ・高知県漁協	・カツオ新商品の開発(H21~23) ・黒潮一番館の施設改修(H22)および通年営業化(H23.3) ◆H21、22産業振興総合補助金を活用し、商品開発、施設拡充、販路開拓、商品PRに取り組んだ結果、新商品については、少しずつ販売実績が上がっている。また、開発したレシピをもとに、町内の事業者が新商品開発に取り組むなど広がりが出てきた。 黒潮一番館の施設改修にあわせて通年営業となったことで、商品開発によるカツオの需要拡大、交流人口拡大など、「カツオのまち土佐佐賀」のPRに貢献している。	・黒潮一番館の活用方法検討 ・もどりカツオ祭の継続開催 ・「日戻りカツオ」の活用方法	◆「漁師の味」の提供 ◆新規開発商品の販売体制の構築 ◆黒潮町に水揚げされたカツオのブランド化



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
35 カツオ文化のまちづくり事業 《黒潮町》	日本一のカツオ漁獲高を誇るカツオ一本釣り船団を有する黒潮町佐賀地域において、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新商品開発、PR等の取組を進めることによって、「カツオ文化のまち」としてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。	・黒潮町商工会 ・黒潮町 ・高知県漁協	・カツオ新商品の開発及びPRの強化(H21~) ・黒潮一番館の施設改修(H22)および通年営業化(H23.3~) ・マリン・エコラベル・ジャパンの認証取得(H23) ◆産業振興総合補助金(H21、22)や水揚げ届交付金制度(町単)等を活用し、施設拡充、商品開発・PR、販路開拓等に取り組んだ結果、町内での商品取扱増やグルメ冊子掲載等の認知度の向上につながった。 また、H23からの黒潮一番館の通年営業化や、H25からの水産物直販市開始等が、交流人口の拡大につながっている。 ＜交流人口実績＞ H21:11,044人、H22:11,565人 H23:16,148人、H24:18,061人 H25:20,000人(見込)	・黒潮一番館の活用方法検討 ・もどりカツオ祭の継続開催 ・「日戻りカツオ」の活用方法	◆新商品の開発及び「漁師の味」の提供 ◆新商品等の販売体制の構築 ◆黒潮町に水揚げされたカツオのブランド化

修正後

修正理由

目標値の上方修正...各種取り組みによりH24にH27目標値を達成したことより、上方修正。(H25見込み:20000人超の予定であるが、流動的な部分もあるため、当面は18000人を目標とする。)

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
35 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進 〈黒潮町〉	地元の魚介類や農産物を使ったレストランや、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光などの情報発信機能を有する施設を黒潮町佐賀地区に整備し、地域が主体的に運営することで、地域の魅力の発掘・発信や消費の拡大、交流人口の拡大を図る。	・黒潮町			◆運営体制の構築 ◆地域資源活用総合交流促進施設整備(農林水産物直売所・飲食施設) ◆商品開発・販売促進



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
36 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進 〈黒潮町〉	地元の魚介類や農産物を使ったレストランや、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光などの情報発信機能を有する施設を黒潮町佐賀地区に整備し、地域が主体的に運営することで、地域の魅力の発掘・発信や消費の拡大、交流人口の拡大を図る。	・(株)なぶら土佐佐賀 ・黒潮町	・道の駅の整備に向けて、道の駅設立準備委員会で施設内容や運営体制を協議、決定 ・道の駅の名称を町内公募 ◆H25産業振興総合補助金を活用し、道の駅「なぶら土佐佐賀」を整備。あわせて、H26年4月のオープンに向け、道の駅の運営母体となる(株)なぶら土佐佐賀を設立。(H25年度)	・町内の既存類似施設と連携した誘客の促進	◆運営体制の構築 ◆地域資源活用総合交流促進施設整備(農林水産物直売所・飲食施設) ◆商品開発・販売促進

修正後

修正理由

目標値の修正・追加・・・H26年4月の道の駅の完成・オープンを機に目標値を修正・追加

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					雇用者数	正規 1名 パート 7名



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					雇用者数	正規 5名 パート 14名
					売上額	160,000千円

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
40 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進 《四万十市》	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通遊型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。	・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんとプロジェクトチーム ・四万十市	・花まつりの通年化(H22~23) ・食まつりとしてのイベント合同開催(H23) ◆通遊型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)における集客増のため、秋に特化した宿泊を促すイベントを開催するにあたり、飲食店組合や旅館組合との連携を強化し、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。	・イベントに頼らない誘客の仕組みづくりと観光商品の造成 ・マイカー旅行者をターゲットとした観光拠点の整備	◆四万十川観光拠点整備 ◆地域資源を活用した観光商品(体験メニューなど)の開発 ◆新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入





【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
43 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進 《四万十市》	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通遊型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。	・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんとプロジェクトチーム ・四万十市	・花まつりの通年化(H22~23) ・食まつりとしてのイベント合同開催(H23~) ◆通遊型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)における集客増のため、秋に特化した宿泊を促すイベント開催にあたって、飲食店組合や旅館組合等との連携を強化し、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。 -自転車観光の推進(H24~) ◆自転車による地域振興の各種取組が高知・愛媛県連携協議会の動きにつながるなど、取組の広域化が見られ始めた。(H25) <観光商品開発数>H24:74体験	・イベントに頼らない誘客の仕組みづくりと観光商品の造成 ・マイカー旅行者をターゲットとした観光拠点の整備	◆四万十川観光拠点整備 ◆地域資源を活用した観光商品(体験メニューなど)の開発 ◆新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入



修正後

修正理由

目標値の変更...これまでは体験プログラム数であったが、他の観光関連アクションプランと同様に入込客数を目標値とした。

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
						観光商品(体験メニュー)開発数 (H22: 63体験)	100体験
四万十川観光拠点整備 四万十川に訪れた観光客の窓口となる施設の検討	・観光資源案内、道路情報、休憩機能を有した施設整備 ・自動車使用による観光客へのおもてなし向上		観光協会と連動した四万十川観光におけるハブ機能の構築				
地域資源を活用した観光商品(体験型メニューなど)の開発 ・地域住民を交えた新たな資源の発掘、地域の魅力の再確認 ・地域の食・文化・歴史などを活用した観光商品(体験型メニューなど)の造成					マーケット、ニーズに沿ったプログラムの磨き上げ		
						観光商品増による入込客数の増、リピーターの増	
新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入 広報、セールス、多数受入時の支援							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
						入込客数 (H21:95.5万人) (H24:117万人)	120万人
四万十川観光拠点整備 四万十川に訪れた観光客の窓口となる施設の検討	・観光資源案内、道路情報、休憩機能を有した施設整備 ・自動車使用による観光客へのおもてなし向上		観光協会と連動した四万十川観光におけるハブ機能の構築				
地域資源を活用した観光商品(体験型メニューなど)の開発 ・地域住民を交えた新たな資源の発掘、地域の魅力の再確認 ・地域の食・文化・歴史などを活用した観光商品(体験型メニューなど)の造成 ・自転車を活用した観光商品の造成					マーケット、ニーズに沿ったプログラムの磨き上げ		
						観光商品増による入込客数の増、リピーターの増	
新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入 広報、セールス、多数受入時の支援							

